

P-011

インクルーシブ保育における発達支援と 適応支援に関する臨床心理学的検討 —幼稚園教諭・保育士と巡回相談に関わ る支援者への調査から—

小柳 菜穂¹、橋本 創一¹、石川 卓磨¹、
佐藤 翔子¹、佐野 昌子¹、田中 里実²、
山口 遼³、秋山 千枝子⁴

¹ 東京学芸大学

² 東京都立大学

³ 国立特別支援教育総合研究所

⁴ あきやま子どもクリニック

本研究は、現在のインクルーシブ保育の実際について明らかにし、インクルーシブ保育と障害幼児の療育における配慮と支援について検討することを目的に、全国の心理職、保育者、療育機関の相談支援担当者を対象に質問紙調査・WEB調査を行った（東京学芸大学研究倫理委員会〔454〕）。

質問調査では、インクルーシブ保育・教育の場における支援に関する考えや意見、障害のある子どもへの支援スタンスなどに関する質問と、2つの仮想事例を用いた質問を行った。なお、仮想事例は国立特別支援教育総合研究所『合理的配慮』実践事例データベースを参考に作成した。調査の依頼は郵送法と縁故法により行い、研究協力の同意が得られた者に回答を求めた。

インクルーシブ保育・教育の場における支援に関する考えや意見についての質問調査では、心理職109名から回答が得られた。保育所／幼稚園では「発達支援が優先されるべきである」に「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した者が約60%、「適応支援が優先されるべきである」に「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した者が約50%と、両側面において回答者の約半数を占めており、発達支援と適応支援の両側面を重要と考える者が多いことが明らかになった。仮想事例を用いた質問調査では、保育者65名、相談支援担当者63名から回答が得られた。職種や仮想事例の内容によらず、場面に応じて発達支援的内容と適応支援的内容のどちらも行おうと回答した者が多く、日頃の様々な要因を考慮し、発達支援的内容と適応支援的内容の配分を調整していることが考えられた。一方、特定の事例と場面では、発達支援的内容を志向する者が両職種において約半数存在し、特定の要因が支援の選択に影響を及ぼす可能性が示唆された。

以上から、インクルーシブ保育に関わる支援者の支援スタンスにおいて、特定の事例や場面によって違いも見られたが、大多数の者が発達支援と適応支援の両側面を重要であるとし、様々な要因によってその配分を使い分けている可能性が考えられた。このことから、本研究では発達支援と適応支援の2視点からインクルーシブ保育を捉えようと試みたが、実際の保育場面では、表面上の定義からは捉えられない潜在的な第3の支援がある可能性が示唆された。

P-012

幼児のクロノタイプと家族の睡眠習慣の ずれによる困難の様相と保育者の支援

岩淵 光子¹、古川 照美²

¹ 岩手医科大学

² 青森県立保健大学

【目的】

近年の夜型化の進行により、子どもの睡眠時間の短縮や睡眠時間帯のずれによる心身の健康や社会生活への影響が懸念されている。そこでクロノタイプと日常生活のずれを改善し適切な睡眠を確保するための健康支援を検討するために、幼児のクロノタイプと家族の睡眠習慣のずれによる困難の内容と保育者による保護者への支援を明らかにする。

【方法】

2020年10月～11月に岩手県の保育所・認定こども園の担任経験のある保育者45名を対象に、自記式質問紙調査を実施した。調査項目は、クロノタイプの認知、家族（親子間、きょうだい間）の睡眠習慣のずれにより保護者が悩んでいた内容、ずれのある保護者への関わりの工夫である。分析は項目ごとに単純集計を行い、自由記載については類似性をもとに整理した。

【結果】

39名から回答があり、クロノタイプを聞いたことがないのは32名（82.1%）、親子間の睡眠習慣のずれを感じたことがあるのは27名（69.2%）であった。親子間のずれによる悩みは、「朝の準備が進まない」「朝食を摂らずに登園」といった朝の困難、「眠る時間帯に遊ぶ」、寝つかず「親が望む時間通りにいかない」といった夜の困難、イライラや疲労感といった「親の心身の不調」、「子どもの不調」があり、「仕事の都合によりリズムが整えにくい」「登園時間に間に合わない」であった。きょうだい間のずれによる悩みは、「起床が遅いほうのきょうだいは朝の準備が間に合わない」「年齢差によるリズムの違い」「姉に合わせた生活によるリズムの崩れ」「乳児の世話で余裕がない」であった。保育者の工夫は、日々の保育の中で、「保護者のタイミングを見て判断し伝える」「園での子どもが困っている様子を伝え見直すきっかけにする」ことから始まり、「育児に対して負担や苦痛に感じないように声をかける」「疲れが見えた時の優しい声掛け」をして、「話をしてくれたときは、話をよく聞き受け止める」、保護者の就労、家庭等の「状況が個々に違うことを理解し受け入れる」ことをしていた。「協力者の把握」を行い「小さいことでもやってみようと思えるようなアドバイスをし、選択できるようにする」「できたことを認め信頼関係を作る」工夫があげられた。

【考察】

家族間の睡眠リズムのずれにより家事や仕事、親子の心身の健康に影響していることが伺えた。保育者は悩みを察し丁寧に対応しており、日々の状況を把握しているためと考えられる。